



第 1 8 1 号



ウソ
(山崎 聖天)
4 班 西木 豊 撮影

発行日 令和 6 年 3 月 10 日
発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
発行責任者 脇田 幸三
連絡先 大山崎町歴史資料館内
TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
URL <https://www.kyoto-ofg.org/>

令和 5 年度 OFG の事業・学習について

事業・学習担当幹事 池田 弘

「大山崎ふるさとガイド (OFG) の会」の活動はコロナの影響で、自粛期間が続いてきました。令和 5 年度より本来の活動に戻る様に、多方面の活動を計画した結果、会員の皆様のご協力により、活発な事業を実施することが出来ました。担当者一同、感謝しています。

今年度の事業学習の目標は「よく見て、調べて、話し合おう」としました。手段としては「現地学習」で周辺地域の優れた活動、文化に触れ学ぶ事です。

「現地学習 長岡京市」は伝統と実績のある「長岡京ふるさとガイドの会」と「大山崎ふるさとガイドの会」が実際の活動を実演し、議論を行って OFG 活動の向上を目指しました。最初に両会の担当責任者が数回打ち合わせ、計画を練り上げました。実行段階では、それぞれの会による同行ガイドと出前ガイドを実施した後、自由討論を行い多くの事を学びました。

「現地学習 島本町」と「現地学習 向日市」では両地域の優れた文化財を現地で見て、調べて、ガイド案内する様式としました。数回の現地訪問の上での発表なので、内容も充実していました。

「現地学習 高槻市」は目的地まで少し遠いのでバスで移動し、現地ガイドの説明をゆったりと聞く形式とし、色々な事を学びました。



福知山城にて

「バス研修旅行」は会員の親睦と各地の文化財を知るため開催されました。晴天で、楽しい一日でした。実施には会から多額の支出が必要ですので、今後どうするか討議が必要です。

「学習発表会」は新会員の皆様が、自由に題材を選び、投影機で発表する形にしました。色々な方々の支援を受け、素晴らしい内容でした。

「新春の集い」は会員の親睦が大切です。今回は色々な余興に工夫があり、盛り上がりました。

「出前ガイド発表会」は既存作品の修正案と新作品の一部を発表しました。OFGにとって重要な事業のひとつである出前ガイドは、経年変化等による修正作業が行われていませんし、新作の追加もありません。次年度からの進展を期待しています。

「OFG歴史講演会」は京都西山短期大学学長の加藤善朗先生の講演により、我々のガイド知識の向上と地域住民の方々にも歴史を楽しんで頂くため開催し、沢山の知識を得ました。



長岡京市ふるさとガイドとの学習・交流会

1月～2月の活動実績				活動予定			
1. 主なガイド				1. 主なガイド			
・1月14日(日)	退職教員互助会西京支部	17名		・3月12日(火)	毎日新聞旅行	3班	
・1月27日(土)	オーリーブ会 29 回生	27名		・3月13日(水)	向日市立第3 向陽小学校 4 年生	全班	
2. 会の行事など				・3月23日(土)	水辺の散策	全班	
・1月18日(木)	新春の集い	37名		・3月28日(木)	大山崎町文化協会	1班	
・1月22日(月)	あちこち学習山歩 71			・4月24日(水)	阪神 MSD 会	1班	
	天王山の知られざる道を歩く	8名		2. 行事予定			
・1月25日(木)	出前ガイド発表会	35名		・4月2日(火)	あちこち学習山歩 73	坂本龍馬と歩く京の町	
・2月2日(金)	第3回竹の里・乙訓ボランティアガイド			・4月18日(木)	令和6年度定期総会		
	交流&研修会			○大山崎町歴史資料館 小企画展	3月12日(火)～24日(日)		
・2月17日(土)	OFG 歴史講演会	66名			「失われた寺院を探る」		
・2月20日(火)	あちこち学習山歩 72			○アサヒグループ大山崎山荘美術館	5月12日(日)まで		
	太閤道→若山神社	10名			「蘭花譜と大山崎山荘 大(だい)大阪時代を生きた男の情熱」		

1-2月 ガイド実績

	一般ガイド		主催ガイド		歴史資料館		出前ガイド		定点ガイド		合計	
1-2月	2件	44人	0件	0人	59件	116人	0件	0人	0件	0人	61件	160人
5年度累計	34件	600人	2件	221人	304件	600人	2件	41人	666件	1,894人	1,008件	3,356人

学習発表会を終えて

主題を「大山崎惣江戸期の統治体制」、副題を「皆さんは江戸期の大山崎惣を自治の町と思われませんか？」として発表した。

1. テーマ選定で悩んだが、以前福島館長の講演の席上で「現代で云う立法・司法・行政はどうなっていたのか」を質問したことを思い出し、これをテーマにした。

2. 「大山崎史叢考」が手元にあったことから、この通読から開始した。ところが、旧字や旧仮名遣い、古文の引用の判読に疲れを覚え、「大山崎町史」を町の図書室から借り出し読んだ。見易く理解が進んだ。

3. 関連図書も借り出して読み、また池田さんから資料をご提供いただいた。

4. 資料作成作業としては、統治体制を具体的にイメージしやすいように図示し注書きも入れた。

5. 自治の町の定義を調べた。一般の辞書では「自治都市」の記載はあるが、日本の歴史に関する国史大辞典等の各辞書には見当たらない。自治都市の概念は西洋から輸入したものらしいことを感じ、また日本においてその定義には諸説があることを福島館長からもお聞きした。

6. 印象に残ることは、

①人口比率の試算（私算）では、支配階級である社家が半数近くもいたこと。

②年貢は銀納であったこと。

③誰から、どの様に、どの位の年貢を徴収するかについて工夫や苦勞をしていたこと。

④財政も困窮し借金もしている。これらは現代と同様で、先人達に親しみを覚えた。

(4班 前原利生 記)

～わたしのふるさと～

私が故郷と感じていたのは、小学校6年生までを過ごした京都市下京区の石井筒町です。“本能寺の変”の舞台となった(元)本能寺から油小路通を300mほど南に下った所です。四条～綾小路間の油小路通の約120mの両側(大山崎の「保」と同じ)の80軒程で構成された町内で、数々の思い出のある場所です。

男ばかりの六人兄弟(私は六男)の我家は町内の男の子の溜り場でした。特に祇園祭前から夏休みにかけては毎晩10数名が自然と集まり、路上で遊んだことが懐かしく楽しい思い出です。

この前、10数年ぶりに兄2人と町内を訪れましたが、ホテルやマンションが半分以上を占め、昔の面影がほとんど無く3人とも愕然としました。

その時に強く思ったのは、我が故郷と呼べる場所は50年前に移り住み子育てをした円明寺ヶ丘団地以外にはもうないと……。

(3班 加藤文則 記)



本能寺跡

私の故郷は広島県東部の三原市です。1567年毛利元就の三男小早川隆景が築いた三原城(別名:浮城)の城下町として開けました。

瀬戸内海と山々に囲まれた田舎町でしたが、交通の要衝として近年発展しました。中四国フェリーはその役割をしまなみ海道に譲りましたが、JR山陽本線と呉線の分岐点で、国道2号線と山陽自動車道が通り、1975年新幹線三原駅が三原城跡の石垣を貫通して開通、北西の山間部に1993年広島空港が広島市から移転開港しました。

筆影山から眺める海と島々の絶景、佛通寺の紅葉、酔心等の地酒、名産のたこ、8月のやっさ祭りと2月の神明市(だるま市)が有名です。

また、子供の頃、節分の夜に「鬼の豆つかしや(下さい)」と言って家々を訪問し、お菓子やみかんをもらって嬉しかった記憶があります。

のどかでおだやかな暮らしやすい町です。

(4班 高垣真二 記)

あちこち学習山歩 69 大坂冬の陣、夏の陣の跡をたどって

11月27日(月)19名が参加。まずは石橋さんの案内で大阪城裏口(搦め手口)のひとつである青屋口へ。

大阪ボランティアガイドさんの案内で表玄関大手門から天守閣を眺め、桜門から難攻不落の城を見聞。

秀吉が千利休と茶会をした静寂な風情の里山、落城の時に淀殿・秀頼母子が自刃した石碑がある刻印石広場を見て城をあとにした。

その後は石橋さんの案内で細川ガラシャ自刃の地である越中井を経て、高山右近とガラシャの像のスタンドグラスがある聖マリア大聖堂という静かな場所、しばしゆっくりと落ち着いた休息を取った。

秀吉没後16年たった慶長19年、京都方広寺大仏殿の開眼供養で家康が鐘銘文に難癖をつけ、これを中止したのが発端で大坂冬の陣が勃発。家康が茶臼山に二十万の大軍の本陣を置くと豊臣方は十万で籠城し真田丸の出兵で対抗。前田、井伊、松平、藤堂

などを寄せ付けず、徳川方は大敗北となって和睦に持ち込んだ。その条件として惣堀を埋められ、櫓や真田丸も壊された大坂城は裸同然となり、結果的に夏の陣で真田信繁(幸村)が討ち死にし、大坂城は落城した。

真田丸跡、信繁とその子大助の菩提寺心眼寺、夏の陣で信繁が力尽きた三光神社、そして天王寺から茶臼山、信繁が討ち死にした安居神社など広範な地を歩いた中身の濃い一日だった。

最後はご案内役の石橋さんに感謝して終わりました。



日本庭園から見た大阪城

(1班 奥西正明 記)